

ポイントおよび取組イメージ

以下に示す、5つのポイントおよび取組イメージにより、コンセプトの実現を推進していきます。

ポイント1 暮らしを支える国内ターミナル機能等の強化による利便性向上

離島・沿岸諸島も含めた利用者に対し、雨天時の利用にも配慮したターミナル施設の機能向上等を図るとともに、駐車場機能強化等による利便性向上を図ります。また、離島の暮らしを支えるとともに、利便性を高めるため、平時だけでなく、地震などの災害時や緊急時における対応も考慮しながら、定期旅客フェリー等が継続的に運航できる機能強化および、効率的な物資供給が可能となるふ頭機能強化を図ります。

【取組イメージ】

① ターミナル施設の機能充実、バリアフリー化・延命化の推進

ターミナル施設のバリアフリー化を図り、駐車場の再整備および車両待機スペース・動線を見直します。
(例) ターミナル内延命化、ポーディングブリッジ改修、駐車場改築・ターミナルと連結、歩行者動線への屋根設置 など

② 岸壁の耐震性検討と対象船型の見直し

旅客埠頭において、地震時等での継続的な運航を可能とするため、耐震性を持つ岸壁の整備や可動橋の複数化、また、国内ターミナル機能の集約を目的とした船舶の再配置を検討します。
(例) 岸壁整備・可動橋整備検討、船舶再配置 など

③ 上屋の再配置と機能強化

国内ターミナル機能集約化のため、上屋利用を元船地区内での海上定期貨物に区分し、併せて荷捌き・保管作業の効率化を目的に上屋整備を実施します。
(例) 上屋機能の集約、機能高度化した上屋改築 など

ポイント2 臨海部を活かした観光・交流機能等によるにぎわいの創出

観光客にとって、観光クルーズが利用しやすい施設配置や、ITやデジタル技術といった次世代技術なども活用しながら、誰もが利用しやすい観光・交流機能、レクリエーション機能を強化するとともに、ベイエリアやまちなか、周辺観光地との連携を促進し、臨海部の更なるにぎわいを創出します。

【取組イメージ】

① 観光クルーズの再配置によるにぎわいづくり

点在する観光クルーズ発着場の集約、待合施設の配置検討など環境整備を行い、やかた船やヨット等を活用した新たなクルーズを検討します。
(例) 観光クルーズ発着施設整備、待合所設置、新たなヨットクルーズの構築、やかた船や交通船就航 など

② 港、水辺を活かした交流施設の配置による港の魅力の向上

国内ターミナル機能の集約によって生まれた土地に、臨海部である強みを活かした交流施設の新たな誘致や、次世代技術を活用したDXによる魅力向上を目指します。
(例) 地産地消飲食施設誘致、臨海部を活かしたにぎわい施設やホテル誘致 など

③ 広場活用によるにぎわいづくり

新たな広場空間の創出や、既存のおくunch広場やプラタナス広場などで、イベント開催や憩い空間の利用促進のため、広場機能の強化を図ります。
(例) 給排水・給電設備設置、緑地化、休憩施設設置、マルシェや海産物を含めた朝市・夜市の開催 など

④ 施設の立体活用による魅力の向上

新たな駐車場や上屋、待合所等、建物の屋上部分を立体的に活用することで、レクリエーション機能の向上を図ります。
(例) 屋上スポーツ広場、屋上緑地広場、ビアガーデン、天体観測場、展望所 など

ポイント3 車両や歩行者にとって優しいみちづくりによる回遊性向上

交通拠点である元船地区の円滑な車両交通を実現し、バリアフリー歩行空間を確保するとともに、各施設間の回遊性向上を図ります。また、地区外との移動の円滑性や案内性を高め、ウォークラブルな動線とすることで、ベイエリアやまちなかと元船地区との結節強化を図ります。

【取組イメージ】

① 道路・駐車場の再編整備による交通渋滞の緩和

駐車場容量、交差点処理や車両動線のあり方を検討し、各種車両の輻輳を緩和させることで、交通渋滞の緩和と安全な車両交通を目指します。

(例) 道路拡幅、交差点改良、駐車場拡張 など

② 公共交通等によるターミナルへのアクセス性の向上

公共交通のターミナル直結の駐車場整備など、ハード、ソフト両面からターミナルへの利便性の向上を図るとともに、新モビリティ等が乗降可能な空間整備を行います。

(例) バス・タクシーベイ設置、観光バス等駐車場整備、自転車・新モビリティ乗降場整備 など

③ 歩行者回遊性の向上

元船地区内の歩行空間の再整備や施設間の連結により回遊性を向上させるとともに、ベイエリアやまちなかと連動し、移動円滑性が高く、快適で魅力あるウォークラブルな空間を目指します。

(例) 歩道(遊歩道)整備、施設間連絡通路設置、施設案内板設置、ウォークラブル空間構築 など

ポイント4 港、海が感じられる景観による魅力の向上

長崎港が広がりをもたせ眺望や、海を航行する船舶への視点場形成、夜景に配慮した照明施設配置等や施設緑化により、心安らげる空間としての魅力向上を図ります。

【取組イメージ】

① 休息空間を含めた長崎港の景観性向上

地区内に休息広場を配置し、そこから長崎港の視点場を確保することで、景観を楽しむことのできる空間づくりを目指します。

(例) 広場整備、休憩施設設置、緑地化、モニュメント設置、軽食施設の誘致 など

② 外から見る元船地区の景観性向上

鍋冠山や立山、稲佐山といった高台や周辺地域への来訪者に対し、周辺地域と溶け込むなど景観に配慮したデザイン性を確保し、更なる夜景空間の確保を目指します。

(例) デザイン配慮型施設整備、夜景に配慮した照明施設整備 など

ポイント5 官民が連携した整備、運営、維持管理の実施によるおもてなしの向上

元船地区を長期にわたり魅力あるみなとまちとしていくため、公共、民間が連携して施設の整備、運営、維持管理を行うことで、利用者のニーズに柔軟に対応できるよう地区全体の質を向上させます。

【取組イメージ】

① 民間活力の導入による官民連携事業の検討

持続可能性に配慮した施設整備や施設の魅力の向上、効率的な管理・運営を行うため、公共と地元も一体となった民間活力の導入を目指します。

(例) PPP・PFI事業の導入、ワンストップ窓口の設置 など

② 長期的かつ戦略的な施設メンテナンスの実施

元船地区の施設の一体的かつ戦略的管理により、施設の機能を損なうことなく、安定的・長期的な公共サービスを提供していきます。

(例) ライフサイクルコストを踏まえた施設修繕の実施、迅速な応急対応 など

観光・交流機能の方向性と具体イメージ

観光・交流機能の導入内容の検討にあたっては、他地区との差別化や周辺計画との調和に配慮する必要があり、利用者アンケート結果や本検討会議、民間事業者へのサウンディング調査での意見を踏まえる必要があります。

観光・交流機能の方向性への主な意見

【利用者アンケートでの主な意見】

- ・歩行者の移動回遊性の確保。
- ・施設の緑化や、長崎港全景を望む視点場の整備。
- ・休息空間づくりや、イベント広場などの利用促進。
- ・多くの来訪者でにぎわう新たな交流施設の誘致。

【検討会議での主な意見】

- ・長崎の魚を飲食できる空間や、市場などで購入したものを屋上で食べる、魚捌きなどの飲食までのコト体験といった、港であることを活かした企画。
- ・修学旅行生やクルーズ客も含め、団体が食事できる機能。
- ・休息、物販、飲食機能を兼ね備えた軍艦島クルーズの待合所機能。
- ・イベント開催など柔軟な対応ができる広場機能。
- ・長崎の海、船を体験できるVRも含めた体験。
- ・楽しめるかつスムーズな回遊性のある動線。

【民間事業者サウンディング調査での主な意見】

- ・他地区と差別化できる海鮮や地場商品をメインとした飲食・物販機能としての活用。
- ・航路による人流を活かした水族館や温浴施設、ロープウェイ発着所、アーバンスポーツ施設、子どもの遊び空間、ホテル等。
- ・屋上のロケーションを活かした展望庭園や、夜景演出、ビアガーデン等の利用。
- ・ターミナル利用者の憩い空間として、カフェや、キッチンカー等の配置。

各意見内容はコンセプトやポイント2、4とも方向性が合致していることを踏まえ、観光・交流機能は以下のとおりの方向性とします。

方向性

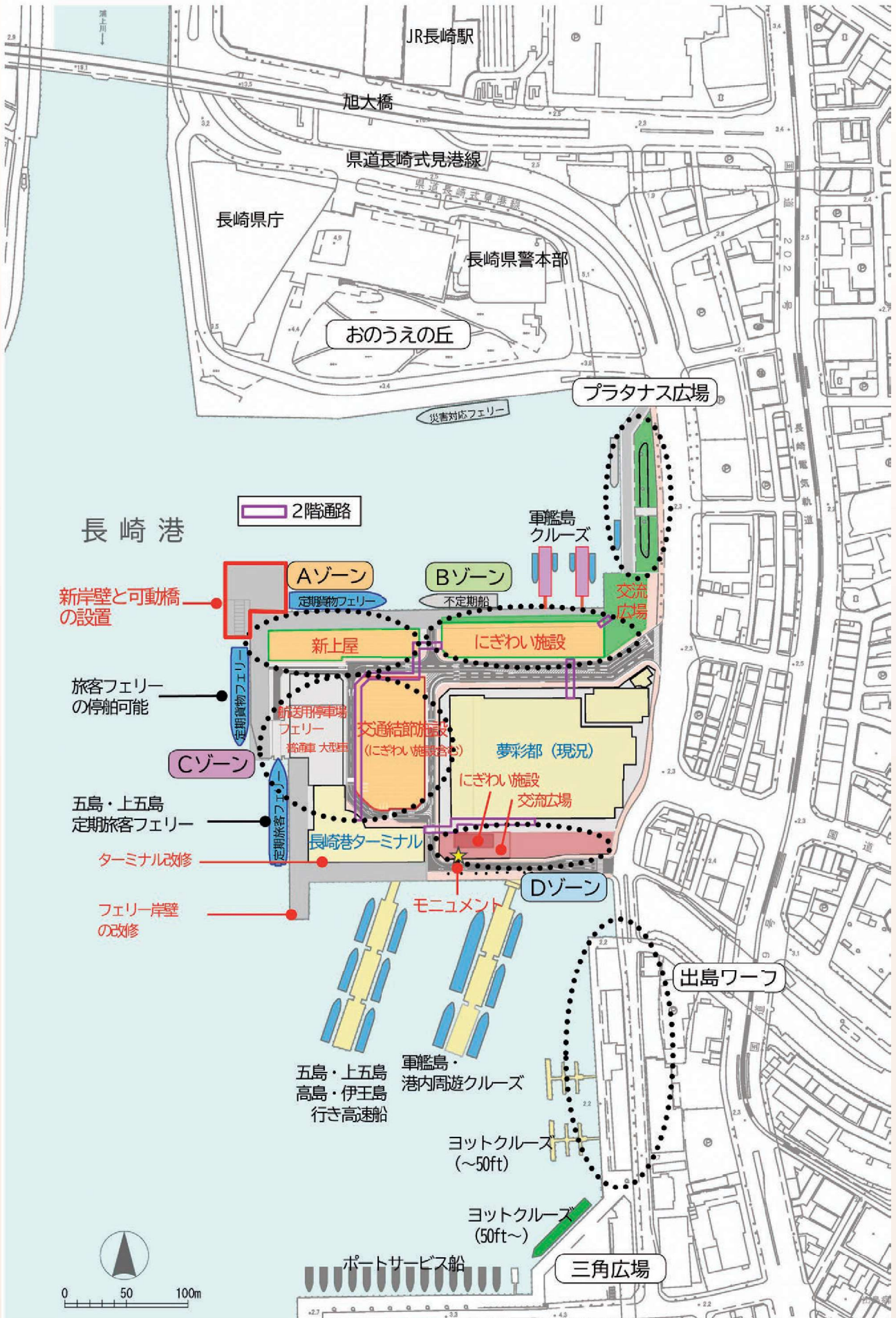
【長崎港元船地区のブランド力を高めていく】

「長崎の海の玄関口」の発展のため、海陸の交通結節拠点としての機能を強化しつつ、海や船や食など、臨海部であることを活かした交流空間を創造していく。

具体イメージ

- 長崎の農水産物を飲食できる空間や、魚捌きなど飲食までのコト体験や物販・配送等が可能となる空間の配置。そのほか、海との関連性を活かした体験型施設や、温浴施設、ホテルなどの配置も考えられる。それらの機能は、インバウンドや観光来訪者などの団体利用のほか、ホテルなどと連携した宿泊型観光での利用も可能であり、航路利用者の待合機能も兼ね、昼間だけでなく、早朝や深夜等も利用可能といった機能性を有することが望ましい。
- イベント等利用（ハレ）や憩い・待合利用（ケ）となる緑化空間の配置。そこには、カフェやキッチンカー、夜景演出、子どもの遊び場、フォトスポットの機能配置など、楽しくなる動線と空間を作る。それらの機能は、屋上展望機能と一体に活用することも望ましい。

全体配置計画



全体配置計画の説明

A
ゾーン

- 北西部に新たに岸壁と可動橋を配置し、本箇所にて定期貨物フェリーをシフトすることで、国内ターミナル機能を西側に集約します。なお、西側岸壁は、定期旅客フェリーも利用可能な構造とすることで、定期旅客フェリー運航のリダンダンシーが確保されます。
- 定期貨物フェリーや定期旅客フェリーに機能集約した上屋を新たに配置します。また、上屋の屋上には、多目的機能（にぎわい施設や展望、緑地・広場機能など）の導入を目指します。

B
ゾーン

- 新たに、にぎわい施設や交流広場を配置し、プラタナス広場からの連続性に配慮します。
- 特に、長崎駅から長崎港ターミナルまでの歩行者動線を確保するための設備（スロープやエレベーター、エスカレーターなど）を配置し、回遊性を高めます。
- にぎわい施設の前面には、軍艦島クルーズなどの観光クルーズ船の発着機能を一部集約し、にぎわい施設周辺には、待合空間を配置します。

C
ゾーン

- 定期旅客フェリーの車両停車場を必要台数分、配置します。
- ターミナル利用者や観光クルーズ利用者、広場利用者等にとって必要な台数を確保した立体駐車場を新たに配置し、必要に応じて、駐車場は、にぎわい施設との複合化や併設化を想定します。

D
ゾーン

- 長崎水辺の森公園や出島ワーフとの連続性を考慮した、広場空間を配置します。
- 広場は、長崎くんちの御旅所やイベント等で活用できる空間や、ターミナル利用者も含めた、憩い空間を配置します。
- また、必要に応じて、モニュメントやカフェ等の配置を想定します。

全体

- 各施設の連絡通路の配置や施設の合築等により、2階レベル以上での地区内歩行者の回遊性の向上を図るとともに、プラタナス広場は、長崎駅と長崎港ターミナルをつなぐウォークアブルな空間として活用します。
- 北側道路拡幅や交差点改良により、車両交通の円滑性を高めます。
- 三角広場は、出島ワーフと長崎水辺の森公園をつなぐイベント活用等が可能なオープンスペースとして活用します。
- 既存岸壁は、大型ヨットや、やかた船等の多目的船の寄港による活用を促進します。
- 各施設のライトアップや岸壁照明等により、夜間景観にも配慮します。
- 上屋上層部や広場等には海が感じられる展望空間を配置します。

元船地区全体イメージパース図







